

面白いエピソードがある…。

今から十年ほど前、筆者が『鬼平犯科帳』を読み始めたころ、「火付盗賊改」、「長谷川平蔵」、「人足寄場」という語句が、はたして、「学校の教科書に載っているものか、どうか…」と思い、当時の高等学校の日本史の教科書を購入したことがある。

平成二十年二月発行の日本史B（東京書籍）には、「寛政の改革」の項に、「さらに江戸市中に増加していた無宿人（浮浪人の滞留を治安維持の名目できびしく取り締まる一方で、1790年（寛政二年）には火付盗賊改長谷川平蔵の意見を採用し、江戸の石川島に（人足寄場）を設立して浮浪人や軽い罪を犯した者などを収容し更生施設とした」と書かれている。

「我が意を、得たり…」と、ばかりに喜んだ。

ところが、どうだ、平成三十一年二月発行の日本史Bのすべての教科書には、「人足寄場」の記事はあるが、「火付盗賊改」も「長谷川平蔵」の文字も消えているではないか。

これは、どうしたわけだ…。

江戸時代も、八代將軍・吉宗の頃になると、「無宿人」が年々増加して社会問題となり、治安対策とともに、徳川幕府の懸案

書から、こうもあっさり削除されていると、「残念…」としか言いようがない。もう少し、「人足寄場」の歴史的な意義にふれて、せめて、「火付盗賊改」、「長谷川平蔵」の名前くらい教科書の何処かに残しておいて欲しかったものである。

『鬼平犯科帳』では、「人足寄場」に関する記述は、第一巻・第八話「むかしの女」を初めとして、第二巻・第一話「蛇の眼」、第五巻・第六話「山吹屋お勝」、第十四巻・



佃島から石川島をのぞむ

『鬼平犯科帳』細見

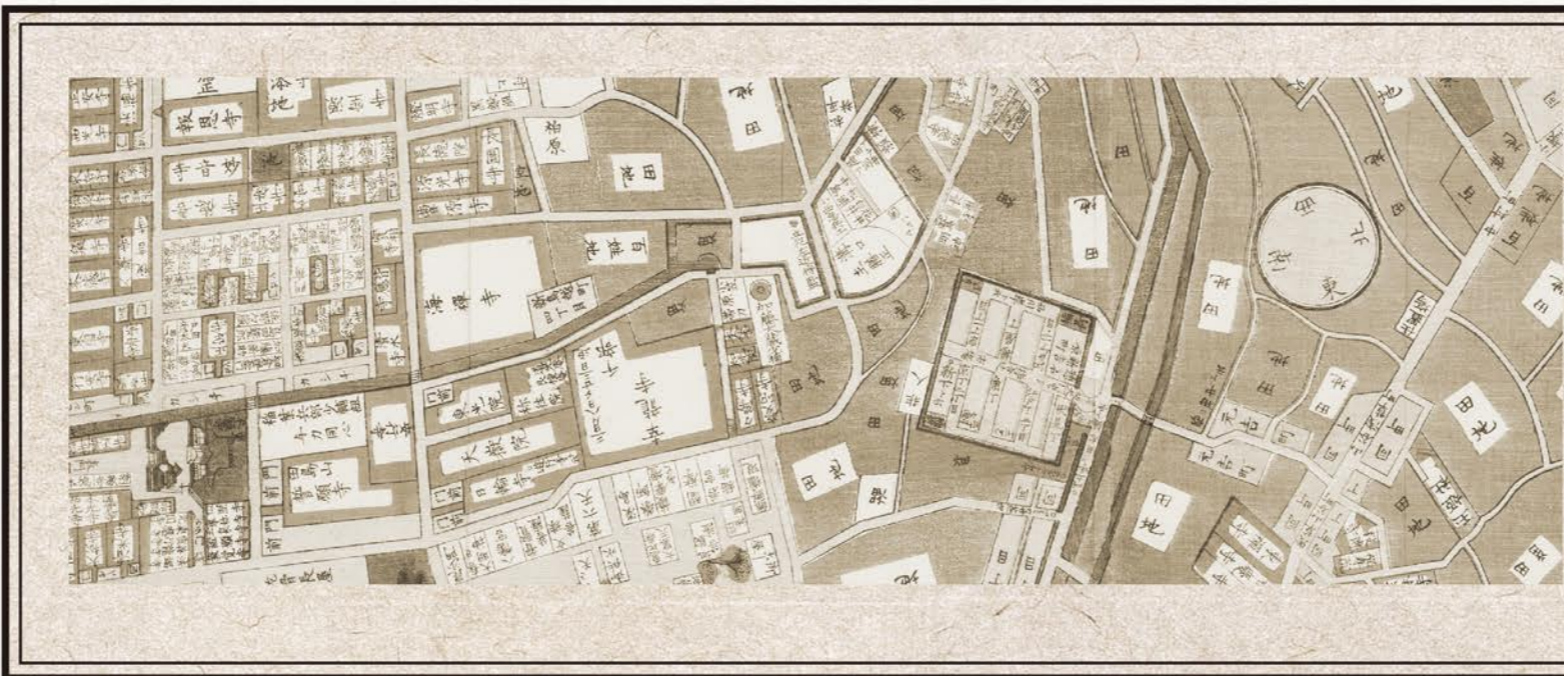
第十回

「人足寄場」

～第一巻・第八話「むかしの女」～

文 松本英亜

text by Hidesugu Matsumoto



事項のひとつとなっていた。

幕府は、安永七年（1778年）、勘定奉行・石谷清昌の発案を採用して「佐州水替人足」の制度を設けたり、安永九年（1780年）、南町奉行・牧野大隅守成賢の発案による深川・茂森町の「無宿養育所」の開設を施策するなど、これまでも、数々の「無宿人」対策が行われてきたが実効が上がらなかった。

こうした経緯を経て、ときの老中首座・松平定信は、天明以後ますます増加する無宿人の更生と治安維持を目的として、これまでの「無宿養育所」の失敗を総括し、寛政二年（1790年）に、「人足寄場」を創設する。命を受けた火付盗賊改方の長谷川平蔵が、実際の寄場建設と運営にあたって具体案を建言し、開設にあたって「人足寄場取扱」を兼務するようになる。

従って、老中・松平定信や長谷川平蔵の独創的な発想によるものではないことは、確かなことである。

だが、「人足寄場」の成功は、その後、日本各地に広がり、近世の我が国の保安処分や自由刑の始まりとされる施設となる。かかる観点からも、長谷川平蔵の功績は、高く評価されるべきものであろう。

ところが、どうだ、現在の日本史の教科

第三話「殿さま栄五郎」、第十五巻・特別長篇「雲竜剣」だけである。
原作者の池波さんが、「人足寄場」については、あまり突っ込んだ書き方はせず、むしろ、さらりと流しているのは、こうした歴史的背景と議論を考慮することなのかも知れない…。



Profile

1942年東京生まれ。
東邦大学医学部卒業。医学博士。
医療法人社団同友会 顧問。
著書に『小さな旅 鬼平犯科帳ゆかりの地を訪ねて』第一部～第五部（小学館スクウェア）。



「小さな旅」鬼平犯科帳ゆかりの地を訪ねて 第5部 小学館スクウェア
定価・本体価格 1,800円（+税）
好評発売中